春日部がもっと好きになる、まちの情報誌

kasukabe Plus

かすかべプラス

2016 SPRING/SUMMER vol.6

元気いっぱいスポーツの華開くまち。

これでわかった!
春日部がスポーツに強い理由

スポーツのまち春日部

全国レベルの強豪校を訪ねて

春日部市には全国を舞台に活躍している小学校や中学校、高校がある。強さの秘密はどこにあるのだろうか。それぞれの学校を訪ねた。

繰り返し強い相手と剣を交え、心を磨く

「中学で3年間剣道を続けたことで、心が磨かれ、いろんなことに耐えられる強さが身についたと思います」

と語るのは、大沼中学校女子剣道部の横川胡桃（くるみ）さん（3年生）だ。平成27年埼玉県学校総合体育大会中学校剣道の部で個人優勝を果たした。

強くなるには「競うこと」と、情熱を持って指導する松岡教諭（中央）。

同女子剣道部は全国屈指の強豪校だ。平成24年の全国大会の団体戦（48校中）で、準優勝に輝いた。それまでの埼玉県勢の最高成績は全国3位。記録を塗り替えた形だ。しかも、以来4年連続の全国大会出場を成し遂げている。

強さの秘密はどこにあるのか。

同校の矢部勇介校長は、

「剣道は心技体（精神力・技術・体力）を重んじる武道。この順番通り、まずは精神力を鍛えることが大切です」

いくら技術を身につけたとしても、相手を前にし「ダメかも」とひるんだら、その瞬間に負ける。勝敗は、7、8割方が気持ちで決まるのだという。

「真の強さを身につけるためには『競うこと』。それもできるだけ自分より強い相手と繰り返し戦うことです」

と語るのは、監督を務める松岡光弘教諭だ。

「何度も負けて悔しい思いを重ね、『次こそは勝とう』と誓い、そのための苦しい練習に耐えることで、だんだん心が強くなるのです」

女子剣道部では日ごろから男子部員と練習試合をしている。前出の横川さんは「男子の力はすごく強い。男子が練習につきあってくれるおかげで女子の力がついていると思います」と語る。

また、土日は毎週のように、県内はもとより、群馬や神奈川、千葉など県外の強豪校等に遠征し、強い生徒たちと練習試合をする。そして、火曜日から金曜日までは、試合で見つけた弱点を徹底的に鍛え直す。

この繰り返しによって、「心」も「技」も高まっていく。剣道で身につけた精神力や忍耐力は日常生活でも生かされている。学級委員や体育委員などで、剣道部員がリーダーシップを取っている例は少なくないという。

「勝つことよりも、相手の礼儀作法を見て、『自分自身はどうだろう』と、見直せるところが好きです」（横川さん）。

主将の
小川さん

【大沼中学校】女子剣道部

毎日の稽古で全力を尽くしています！竹刀を握ると心が落ち着きます。

中学校で必修化されるなど武道が注目されている。その背景として「武道は日本に古くからあり、相手を思いやり礼を尽くすスポーツ。心も身体も鍛えられるところが注目されている」と矢部校長。

保護者と指導者と生徒の絆が強さを支える

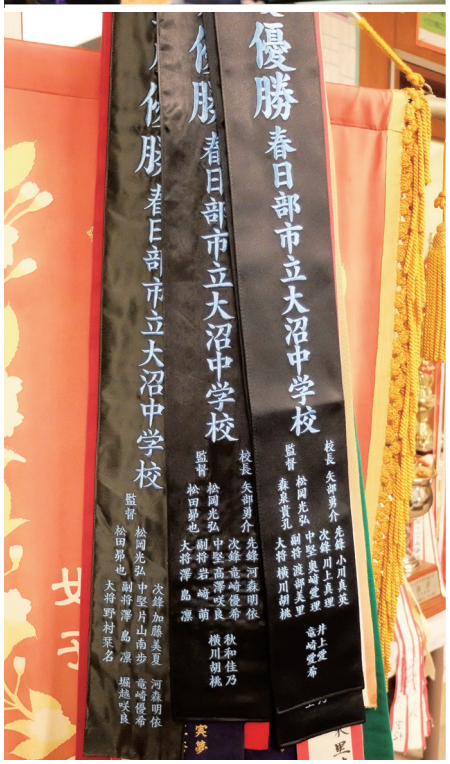
平成27年11月に開催された県の新人体育大会でも団体戦で優勝した。主将を務めた小川真英（さなえ）さん（1年生）は、「試合で勝てたのは、先生や保護者の方々のおかげです」という。

剣道部では、保護者たちが「絆クラブ」という組織をつくり、子どもたちをバックアップしている。練習は放課後に行われるが、下校時刻までの時間は少ない。そこで、下校時刻の後は、保護者がつき、絆クラブが「社会体育」として体育館を借りる形で練習を続けている。遠征の際に車を出し、部員たちの送り迎えをするのも保護者たちだ。

情熱を持って指導する教師に、練習に励む部員たち、そしてサポートする保護者。大沼中の剣道部の強さは、この三者の強い絆が支えている。

「試合で勝つと、生徒も親御さんも本当に喜ぶ。その姿に毎回感動させられます。そこが指導者冥利に尽きるところです。だからまた勝たせたい」と松岡教諭。

大沼中学校女子剣道部の現在の目標は、2年後に全国優勝を果たすこと。日本一の剣道部を目指し、今日も練習を続けている。



（左上）試合を待つ大沼中学校女子剣道部の部員。「自分が緊張すると部員に緊張が伝染する。試合前には、まずは自分から落ち着くよう心がけています」と松岡教諭。（左下）校長室に飾られた優勝旗。（右上）平成27年の県新人体育大会で一本を決めた小川さん。「練習は苦しいけれど、県大会で優勝できたときは言葉にならないほどうれしかった」（右下）平成27年8月に開催された全国中学校剣道大会。3年生は大沼中学校に入学してから剣道を始めた部員もいるなか、団体戦で全国大会にも出場した。

ボクが速く走れる理由？何よりも走ることが好きだからかな。

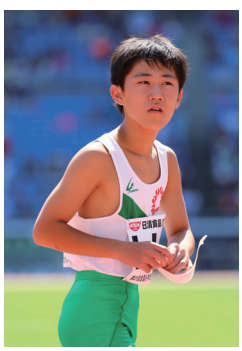
友だちとの練習が楽しく いつの間にか速くなった

「将来は陸上の選手になりたいです」と目を輝かせるのは、武里西小学校6年生の山崎颯太（そうた）くん。平成27年度の全国小学生陸上競技交流大会で男子「4×100m」リレーに出場し、全国3位の成績を収めた。市内きっての俊足の小学生ランナーだ。

4年生の春に宮城県から転入してきたばかりの頃は、それほど足が速かったわけではない。武里西小の友だちと一緒に練習するうちに走るのが楽しくなって、家に帰ってからも走るようになった。そのうちにめきめき足が速くなり、5年生のときには市内の大会で優勝するほどの力をつけていた。

武里西小には山崎くんのように俊足を誇る児童が揃っている。市内全24校の小学校は、東・西・南・北の4ブロックに分けて毎年陸上大会を行っているが、同校は平成15年の開校以来、南ブロックで13連覇という快挙を達成している。足が速いのが伝統だ。

そもそもは、開校の際、教育目標の一つに「陸上を強くすること」を掲げたことに



平成27年度全国小学生陸上競技交流大会の4×100mリレーで3位に入賞。2走を務めた山崎くん。

開校当初、教室に残る児童がいないよう、休み時間は校舎に鍵をかけるという徹底ぶりだった。今は校舎に鍵をかけることはなくなったが、休み時間になるとほとんどの子が、ドロケイやリレー、かけっこを楽しんでいる。校庭には平成25年にジャングルジムができたばかりで、遊具は最低限に留めている。

端を発する。同校から現在、市のスポーツ推進課に配属されている花車進矢主査は、

「走ることは体力づくりの基本。運動することは学力向上につながるともいわれています。そのために陸上に力を入れていくことにしたのでしょう」と分析する。

開校当初、遊具が設置されていなかったが、休み時間は校庭で遊ぶよう児童に促した。遊具のない校庭での遊びといえば、かけっこ。子どもたちは自ずと走る力をつけていった。現在も走って遊ぶ習慣が受け継がれ、休み時間になると、校庭は走り回る子どもたちであふれる。かけっこが同校の陸上を強くしている。

「児童がスポーツ好きになる練習方法を考えることが大切」と花車主査。

「陸上といえば春日部」を未来へと引き継ぐ

「連覇は子どもたち自身の誇り。一方で、『自分たちの代で負けたらどうしよう』という気持ちも持っている。だから、大会の前になるとみな真剣に、しかも自主的に練習に励んでいます」

と池澤成一教諭。

市の陸上大会は全員が出られるわけではない。いい記録を出した子が選ばれる。多くの小学校では、早い時期から記録を

持久力が勝負の1000m走。

ハードル走も武里西小学校が得意な種目。

バトンの受け渡しも普段の練習の成果。

出せる子を選び、集中して練習させる。しかし、武里西小は違う。児童一人ひとりに出たい競技を選ばせ、大会に向けて全員で練習をしていく。大会の3日前に先生が選手を発表する。

「どの子も『大会に出たい』と、一生懸命に練習をする。選ばれないと悔し泣きする子も多い。選ぶ私たちも胸が痛みます。でも、全員が大会に向けて練習することで、体力が上がり、一生懸命にやることで、スポーツの楽しさを覚え、好きになっていく。私たちの目標はそこにあるのです」（池澤教諭）

「体育の時間でもとにかく褒めるようにしています」と池澤教諭。

春日部市は市全体としても小学生の陸上のレベルが高く、埼玉県の代表として全国大会に出場する児童の半分を春日部が占めることが少なくない。

花車主査は、その理由の一つを、「先生方が非常に熱心で、ちゃんと基礎を教えているから」と言う。

春日部市内の小学校では、陸上をきちんと教えようという文化があり、先生方にもそれが受け継がれている。

「陸上といえば春日部」。

この伝統は熱心な指導者と教え子たちによって脈々と続いていくだろう。

正善小学校で行われた陸上大会。平成27年度も優勝できて笑顔いっぱいの児童たち（右ページ下3点の写真も含む）。

【春日部共栄高等学校】野球部

もう一度
甲子園に出て
全国制覇したい!

「お前はそれでいいのか?」部員に問い、自主性を育てる

昭和55年の開校と同時に創部した春日部共栄高等学校の野球部は、これまで7回甲子園に出場。平成26年の夏の甲子園で、センバツ優勝校を破った同校ナインの勇姿は記憶に新しい。

1年生のときにその試合に出場し、現在キャプテンを務める関谷将貴さんに、強さの秘訣について聞いてみた。

「『練習は厳しくやって、試合は楽しくやろう』という監督の言葉が実践できているからだと思います」

試合で楽しい気持ちになるために、普段はとことん練習をしようというスピリットが部員たちに浸透しているのだ。

創部以来、部を率いているのは名将本多利治監督。常日頃から、指導の中で大切にしているのは自主性の育成だという。

「人は強制的にやらされている限り、大きな進歩はありません」

自主性を育てるために、本多監督は常に部員にこう問いかける。

「お前は本当にそれでいいのか? 考えてみろ」「自分の練習で足りないところはどこだ? 考えてみろ」

まずは、自分で考えさせ、「わからなければ、聞きに来い」と加える。

全体練習が終わった後、多くの選手がグラウンドに残り、自主的

関谷キャプテン

「明るく・楽しく・元気よく」
試合をするため、とことん練習します！

平日は月曜日を除いて毎日放課後に練習があり、土日はオープン戦。全員での練習時間終了後も残って自主練習をする部員も多い。野球部では練習時間以外の日常も自分で考え、行動することが求められている。

甲子園に出て愛する春日部の名を広めたい！

休み時間や始業前の時間を使って集中的に勉強する部員。

に練習を続けるのは、自分で考え行動することが身についているからだ。

また、日常生活での行動と野球をつなげることにも重点を置く。

「50分の授業に集中できなければ、2時間の試合は集中できません。普段の生活からきちんとすることで、ちゃんとしたプレイにつなげていこう、と言っています」

監督としての長年の経験に裏打ちされた一言一言は重く、部員たちの心に深く響く。出身者を見ると、プロ野球選手を多く輩出している一方、さまざまな分野で活躍する人が少なくない。

平成5年夏の甲子園で準優勝を果たした当時の部員で、現在イタリアンレストランを経営する根岸要（かなめ）さんはこう語る。

「飲食店は続けることがとても大変。でも共栄野球部で『あきらめない』ことを教わりました。開店以来8年の間には苦しいときもあったが、こうしてお店を続けられているのは、高校時代に培われた忍耐力と考える力のおかげです」

本多監督の指導は、野球の試合だけでなく、社会の荒波に打ち勝つ人間形成にも、大いに役立っている。

「レストランは共栄高校生徒の親御さんにも多く利用いただいています」と、OBの根岸さん。

本多監督

全校児童が参加

毎日の体力づくり

まるで緑豊かな公園を駆け抜けているようだが、実は上沖小学校の敷地内。特別な日ではなく、授業のある日の毎朝の光景だ。

富多小学校

なわとび連続20分達成で週に一度、賞状がもらえる!

富多小学校は児童数が市内でもっとも少ないという小規模の学校だが、市内屈指のなわとび強豪校だ。同校では児童の体力向上のために平成19年から「なわとび20分チャレンジ」を始めた。毎週水曜日の朝20分間、全校児童がなわとびを持ち、跳び続ける。達成した児童は、賞状がもらえる。

この練習が功を奏し、県大会では、出場した19名のうち、時間跳びで13名が入賞した。6年生の岡田天杜(そらと)くんは、1時間49分45秒を跳び続けて、見事埼玉県の新記録を出した。また、4年生で優勝した島村恋幸(こゆき)さんは「彩の国プラチナキッズ」プログラム(※)の一人にも選ばれるほどの身体能力の高さで、「なわとびは学校の伝統だから引き継いで頑張りたい」と抱負を語った。

4年生の島村さん

体育主任の吉田元(はじめ)教諭は「今後は種目跳びをいかに練習していくかが課題。目標は全学年での優勝。児童それぞれに可能性を広げていってほしい」という。

体育主任の吉田教諭

上沖小学校

木立の中をクラスで競う 1周400mの林間マラソンコース

上沖小学校の始業前の校庭はにぎやかだ。学校の敷地内に作った400mの林間コースを毎朝15分間、全校児童が走っているのだ。その名も「林間マラソン」。時折、児童に寄り添うように一緒に走る先生の姿もある。

何周走るかは自分で決める。小学校1年生で3、4周を走る子もいれば、体力のない子はゆっくりマイペースで走る。歩かないことが唯一のルール。歩いている低学年の子がいると、5、6年生の体育委員が「一緒に走ろう」とサポートに回る。クラスごとに年間の目標があり、達成すると賞状がもらえる。

6年生の髙橋くん

6年生で体育委員を務めている髙橋玄(げん)くんは、「林間マラソンを頑張ることで、持久走の順位が上がる」と熱心に取り組んでいる。

出井校長

同校の出井(いで い)宏美校長は、「毎日走ることで着実に体力の向上につながっていると感じます。昨年、一度も学級閉鎖がなかったのも、林間マラソンのおかげだと思っています。木の根っこのあるところを走っていくので、バランス感覚も養えるでしょう。今後は子どもたちの励みになるようコースに『ゴールまであと○m』の表示を入れるなど、整備をしてあげたいですね」

※県内の小学校4年生を対象に、スポーツ能力に特に優れた素質も持つ子どもたちを組織的に発掘し、ジュニア期から発達段階に応じた適切な育成プログラムを実施する。県内で約30名が「プラチナキッズ」として選ばれている。

やってみたい！

スポーツ少年団！

スポーツ少年団とは、「子どもたちの健全育成」を目指す、日本体育協会の事業の一つ。全国に組織されており、入団した子どもたちは、主に、土日などに集まってスポーツを楽しむ。春日部市のスポーツ少年団の魅力に迫った。

平成27年9月に行われた親子スポーツのつどいの様子。

子どもたちや親から信頼される指導者を育成していきたい！

広場の四隅で野球をしていた子どもたちを集め、豊春ジャガーズを創団した吉田本部長。

失敗を恐れず挑戦する子を育む

現在、春日部市スポーツ少年団は、サッカー、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、剣道、ソフトボール、柔道、ソフトテニス、体操の9種目58単位団がある。また、埼玉県は指導者数や団員数の多さで全国1位。春日部市は、県内の人口20万人以上の市でスポーツ少年団の指導者数や団員数が県内2位（※）。全国的に見ても子どもたちの個性を伸ばす環境が整っている。

約40年前から春日部市スポーツ少年団の活性化に尽力してきた同少年団の吉田敏雄本部長は、その特長は大きく四つあるという。

「一つは『交流』。例えば、スポ少と老人会による三世代交流イベントが行われています。地域の人が子どもたちの顔を覚え、見守りにつながります」

それ以外にも、春日部市スポーツ少年団親子スポーツのつどいなどを開催。平成27年9月に行われた同イベントには、総勢約1650人もの人が参加。親と子が一緒になり、スポーツを楽しんだ。さまざまなイベントを行うことで、子ども同士や、親子、地域との交流が生まれている。

「二つ目は仲間づくりを大切にしていること。学校でいじめられる子がいたら仲間になるよう指導もしています。三つ目は礼儀や感謝する心を身につけられること。そして、四つ目は指導者に対する育成に力を入れていることです」

「やってみせ、やらせてみせて、できたら褒める」ことを徹底して伝え、怒鳴ることを禁止。だから、子どもたちは失敗を恐れずに挑戦し、伸びていく。

入団すると、普段見られない子どもの顔が見られます

「子どもを教えることによって学ぶことも多いです」と利根川さん。

野球の楽しさを教えてあげたい

利根川友和さんは、春日部市スポーツ少年団内牧少年野球クラブの指導者として、17年前から活動をしている。

指導のモットーは「野球の楽しさを教えること」だ。

「子どもたちは一人ひとり伸びるスピードが違う。一気に上手になる子もいれば、3年かかる子もいます。大切なのは、うまくない子をよく見て良いところを探して『ここが上手にできているよ。すごいね』と褒め、楽しいと思ってもらうこと。できなかったところがあれば、『今日はできなかったけれど、来週はできるようになる。次回、また頑張ろう』と勇気づけ、次も来るように促します。続けることで少しずつ伸びていきます」

愛情あふれる指導によって、素振りもできなかった子がホームランを打てるようになるときがある。その瞬間、指導者をやっていてよかったとつくづく実感するという。

さまざまな魅力にあふれる春日部市スポーツ少年団。門戸を広く開き、団員も指導者も募集中だ。

※財団法人埼玉県体育協会「平成27年度埼玉県市町村別スポーツ少年団登録一覧」より（人口1,000人あたりの数）

部の子どもたち

春日部市内の小・中学生たちのスポーツにおける活躍ぶりには実に目覚ましいものがある。ここでは平成27年度、全国大会に出場した選手たちを紹介したい。

埼玉県選抜 埼玉スーパースターズ　梅村 剛　春日部中（3年）　第10回U15全国KWB野球秋季大会（優勝）

岩浪 巧実　武里小（6年）　第31回全国小学生陸上競技交流大会（3位）

バドミントン

氏　名	学校名（学年）	大会名
都道府県対抗団体戦（男子）		
鈴木 翔馬	武里中（3年）	第14回日本バドミントンジュニアグランプリ（優勝）
町田 笙太郎		
男子団体		
鈴木 翔馬	武里中（3年）	平成27年度第45回全国中学校バドミントン大会
町田 笙太郎		
岩上 駿太		
勝間田 聖亜		
吾妻 健太郎		
嶋田 匡明	武里中（2年）	
加藤 恵		
男子ダブルス		
鈴木 翔馬	武里中（3年）	平成27年度第45回全国中学校バドミントン大会（3位）
町田 笙太郎		
男子シングルス		
木村 輝星	川辺小（4年）	第24回全国小学生バドミントン選手権

空手

氏　名	学校名（学年）	大会名
個人戦　中学3年生女子 形の部		
津野 楓	谷原中（3年）	ASIA OCEANIA KARATE CHAMPIONSHIPS 2015（優勝）
		文部科学大臣杯 第58回小学生・中学生全国空手道選手権大会（3位）
小学校1年生 男女混合　個人　型		
齋藤 夏生	備後小（1年）	第16回松涛連盟全国空手道選手権大会（型5位）
小学校2年生 男女混合　個人　組手		
岸 龍之介	小渕小（2年）	第16回松涛連盟全国空手道選手権大会
森 大翔	小渕小（2年）	第16回松涛連盟全国空手道選手権大会
小学校3年生 男子個人　型・組手		
齋藤 怜生	備後小（3年）	第16回松涛連盟全国空手道選手権大会
男子団体 組手		
川崎 晃太郎	中野中（3年）	第23回全国中学生空手道選手権大会
東畑 亮汰		
鈴木 真太郎	中野中（2年）	

アイスホッケー

氏　名	学校名（学年）	大会名
アイスホッケー（男子）		
木村 励	武里西小（6年）	バット・クイン・クラシック・アイスホッケー Peewee AAA エリートトーナメント（3位）

陸上

氏　名	学校名（学年）	大会名
男子4×100mリレー		
長田 昂己	粕壁小（6年）	第31回全国小学生陸上競技交流大会（3位）
山崎 颯太	武里西小（6年）	
山家 和文	桜川小（6年）	
岩浪 巧実	武里小（6年）	
男子100m		
鈴木 雄大	幸松小（6年）	第31回全国小学生陸上競技交流大会（準決勝8位）
筧田 涼介	豊野中（3年）	第42回全日本中学校陸上競技選手権大会（準決勝進出）
男子1500m		
白鳥 哲汰	豊野中（2年）	第46回ジュニアオリンピック陸上競技大会（7位）
		第42回全日本中学校陸上競技選手権大会
男子3000m		
白鳥 哲汰	豊野中（2年）	第42回全日本中学校陸上競技選手権大会
女子100mハードル		
保科 晴香	春日部中（2年）	第46回ジュニアオリンピック陸上競技大会（準決勝進出）
1年女子走幅跳		
伊藤 尚子	大沼中（1年）	第46回ジュニアオリンピック陸上競技大会
男子四種競技		
工藤 雅也	武里中（3年）	第42回全日本中学校陸上競技選手権大会
男子110mハードル		
時田 翔梧	豊野中（2年）	第46回ジュニアオリンピック陸上競技大会（準決勝進出）

野球

氏　名	学校名（学年）	大会名
野球（男子）　埼玉県選抜 埼玉スーパースターズ		
梅村 剛	春日部中（3年）	第10回U15全国KWB野球秋季大会（優勝）
大浦 和馬	豊春中（3年）	
中村 龍人	武里中（3年）	
内田 伊織	武里中（3年）	
野球（女子）　埼玉県女子選抜 埼玉スーパースターズF		
塩原 杏華	大沼中（1年）	第4回U15全国女子KWB野球選手権大会（3位）

全国大会で活躍する春日

武里中　バドミントン部　平成27年度第45回全国中学校バドミントン大会（3位）

津野 楓　谷原中（3年）　ASIA OCEANIA KARATE CHAMPIONSHIPS 2015（優勝）

剣道

氏　名	学校名（学年）	大会名
女子団体		
横川 胡桃	大沼中（3年）	平成27年度第45回全国中学校剣道大会
渡部 美里		
奥崎 愛理		
川上 真理		
井上 愛		
小川 真英	大沼中（1年）	
竜崎 愛希		
女子個人		
横川 胡桃	大沼中（3年）	平成27年度第45回全国中学校剣道大会
団体		
横川 さくら	牛島小（6年）	第50回記念全国道場少年剣道大会

バスケットボール

氏　名	学校名（学年）	大会名
バスケットボール（女子）		
川地 奈菜子	豊野中（2年）	ターキッシュエアラインズ bjリーグジュニアユース バスケットボールカップ決勝大会（優勝）
坂齋 綾南		
油原 千紘		
大久保 春花		
中澤 梨南		
鈴木 爽音	豊野中（1年）	
鈴木 唯香		
山下 芽		
野口 萌那		
近藤 菜々実		
石井 晴菜		
蟹谷 悠夏		
各務 早紀		
新井 和佳奈		
倉持 のりか		

水泳

氏　名	学校名（学年）	大会名
男子400mメドレーリレー		
小森 優輝	春日部中（3年）	平成27年度第55回全国中学校水泳競技大会
中間 祐介	春日部中（1年）	
岩城 優太	春日部中（1年）	
鈴木 優太	春日部中（2年）	
女子400mリレー		
田嶋 玲奈	大増中（2年）	平成27年度第55回全国中学校水泳競技大会
松崎 愛	大増中（3年）	
谷口 紗英	大増中（2年）	
政清 茉菜	大増中（3年）	
女子400mメドレーリレー		
二宮 寧々	大増中（3年）	平成27年度第55回全国中学校水泳競技大会
松崎 愛		
田嶋 玲奈	大増中（2年）	
谷口 紗英		
女子100mバタフライ		
田嶋 玲奈	大増中（2年）	平成27年度第55回全国中学校水泳競技大会
女子400m個人メドレー		
三浦 理音	春日部中（2年）	平成27年度第55回全国中学校水泳競技大会
女子50m自由形		
青木 芽生	武里中（3年）	平成27年度第55回全国中学校水泳競技大会

日本拳法

氏　名	学校名（学年）	大会名
日本拳法		
庄司 麦	武里小（1年）	平成27年度日本拳法東日本少年選手権（小学1年女子の部優勝）
庄司 紅	武里小（3年）	平成27年度日本拳法東日本少年選手権（小学3年女子の部優勝）
山田 太粋	豊春小（4年）	第33回全日本拳法少年個人選手権大会（小学4年男子の部2位）
山田 彩音	豊春中（1年）	平成27年度日本拳法東日本少年選手権（中学1年女子の部2位）
青木 海偉斗	大沼中（1年）	平成27年度日本拳法東日本少年選手権（中学1年男子の部2位）
島田 和	武里小（6年）	平成27年度日本拳法東日本少年選手権（小学6年男子の部3位）

チアダンス

氏　名	学校名（学年）	大会名
Pom部門 中学生Largehe編成		
卯木 昴	武里小（5年）	第15回全日本チアダンス選手権大会 決勝大会（2位）

柔道

氏　名	学校名（学年）	大会名
柔の形		
矢島 侑依	春日部中（2年）	平成27年度全日本柔道形競技大会（3位）

※順不同。敬称略。平成28年2月現在の情報を掲載

渡嘉敷来夢さん

バスケットボール女子日本代表

スポーツも勉強も、楽しみ、好きになることが大切。

春日部に住んだことでスポーツの楽しさを知った

3大会ぶり4回目の五輪出場を決めたバスケットボール女子日本代表。そのけん引役ともいえるのが渡嘉敷来夢選手だ。「100年に一人の逸材」といわれている。ふるさと春日部を凱旋訪問した際には次のように決意を語った。

「リオデジャネイロ五輪では、メダルを獲得できるように頑張りたいです！」

渡嘉敷選手は小学2年生のときから春日部市に住んでいる。

「活発で負けず嫌い。やんちゃ過ぎて、授業中に『うるさいぞ』って先生に怒られていました（笑）」

空手に野球、2歳年上の兄がやることは何でもまねた。運動が大好きで運動神経は抜群。小学6年生で出場した陸上大会では走り高跳びで日本一に。

豊春中学校に入学すると、球技がやりたくてバスケットボール部に入部した。

「男子部の顧問だった黒澤智先生がすごく熱心に教えてくれました」

引き込まれるようにバスケの面白さを実感するようになった、と渡嘉敷選手。しかし5名の女子部員のうち2人が退部。試合ができなくなった。

渡嘉敷選手は、バスケを続けるため、友人がいた東中学校への転校を決断。全国大会ベスト8入りを果たす。そこでの渡嘉敷選手のプレーが、バスケ名門校の目に留まったのを機に、世界で活躍する選手へと階段を駆け上がった。

「スポーツの楽しさを知ることができたのは、春日部市に住み、小学生時代に日本一になったことや、中学生時代にベスト8を経験できたからだと思います。春日部、大好きですね」

そんな渡嘉敷選手から春日部市の小・中学生にメッセージをもらった。

「何ごとも全力でやることは大事だけど、楽しんで好きになることも大切。スポーツでも勉強でも、『楽しむこと』を大切に取り組んでほしいです」

母校の東中を訪れ、ミニゲームや撮影会などで生徒たちと触れ合った。子どもたちは間近に見る渡嘉敷選手に目を輝かせた。

渡嘉敷来夢さん

豊春中でバスケに出合い、東中で全国大会ベスト8に。桜花学園高校時代、北京五輪の日本代表候補に選出。2010年、JX-ENEOSサンフラワーズに入部。2011年から日本代表。2015年、アメリカプロリーグWNBAのシアトル・ストームでも活躍する。

内山高志さん

WBA世界スーパーフェザー級スーパー王者

手の届く目標を立てて、一つずつ
クリアしていくことが大事だと思う。

春日部は運動するのにいい環境が整っている

平成27年12月31日のWBA世界スーパーフェザー級タイトルマッチで内山高志選手は見事11回目の防衛に成功した。日本歴代単独2位の記録だ。

春日部出身の内山選手は、子どもの頃からスポーツに親しんだ。

「今、目指しているのは、ボクシングの聖地、アメリカ・ラスベガスで試合をして結果を残すことです」と内山選手。

「環境が良く、運動するのにとてもいいまちですね」

内牧小学校時代は、地域の少年野球チームに入る傍ら、学校では体操部に所属。陸上選手に選ばれたこともある。春日部中学校に入ると今度はサッカーに夢中になった。この頃、テレビでボクシングの試合を見たのをきっかけに、花咲徳栄高校への進学を決め、ボクシングを始めた。

「ボクシングが長続きしているのは、やっぱり面白くて好きだからです」

ボクシングの面白さを実感したのは拓殖大学1年生のときだ。ボクシングの名門校だけあって、部員はみな全国トップレベル。内山選手は、補欠にも選ばれず、同級生の荷物運びをさせられるという屈辱を味わった。レギュラーになりたい一心で練習に明け暮れ、部員たちが羽を伸ばす夏休みには特に力を入れた。

『みんな頼むから遊んでいてくれ。追い抜いてやるぞ』という感じでしたね(笑)」

そして、この年の11月、全日本選手権大会で埼玉県代表として出場した内山選手は、たまたま同じ大学で「部内一の天才」といわれた2年上の先輩と戦うことになった。誰もが内山選手が負けると決めつけていた。結果は内山選手の判定勝ち。

「人よりも努力すれば勝てる」

内山選手はそう実感し、ボクシングに惹かれていった。今も努力を欠かさない。

「運動でも勉強でも目標に向かって努力すると思う。そのときに立てるのは、『今週中に0・1秒速く走れるようになろう』といったような小さな目標がいい。手の届く目標をクリアした先に次の目標が見えてくる。それをまたクリアする。それによって力がついていくと思います」

内山高志さん

大学卒業後は就職し、アマチュアでボクシングを続けるも、やはりプロになりたいとワタナベボクシングジムに入り、2005年プロデビュー。実家のある春日部が大好きで、今も1、2週間に一度は必ず戻ってくる。実家で飼う猫と遊んでいると、リラックスできるそう。

この情報誌には、写真が動くAR動画を掲載しています。
シティセールスシンボルマークのアイコンのある写真でAR(エーアール)動画を楽しめます。スマートフォンやカメラ付きタブレットでAR動画を再生するには、無料アプリ「Aurasma」(オーラズマ)をインストールしてください。詳しくは市公式HPへ。

<こちら、シティセールス広報課です!>

EVENT

4/24(日) 春日部藤まつり

7種類のフジの花を探してみよう!

春日部駅西口から延びるふじ通り。通りの両側には200本以上の市の花「フジ」が植栽され、約1kmにわたる藤棚に垂れ下がる花房のもと、毎年4月最終日曜日に「春日部藤まつり」が開催されます。通りでは4月中旬から5月初旬にかけて、7種類のフジの花と香りを楽しむことができます。

場所:春日部駅西口ふじ通り
問合せ:春日部市コミュニティ推進協議会事務局
(市民活動センター「ぽぽら春日部」内)
TEL:048-731-3550
アクセス:東武スカイツリーライン・東武アーバンパークライン　春日部駅西口下車 徒歩7分

房の短いフジ　開花時期が早く、香りも強いといわれる

シロカピタン

ムラサキカピタン

アカカピタン

房の長いフジ　開花時期は遅く、藤棚から垂れる姿が美しい

ムラサキナガフジ

コクリュウフジ

クチベニフジ

シロナガフジ

5/3(火・祝)・5(木・祝) 大凧あげ祭り

百畳敷の大凧が大空を舞う姿は圧巻!
今年の文字は「春日部」「元気」に決定!

江戸川河川敷を埋める10万人もの人々が見守る中、縦15m、横11m、重さ800kgの大凧が空へ舞い上がります。その隣では小凧や小町凧などが舞い、祭り気分をさらに盛り上げます。

場所:西宝珠花地先江戸川河川敷(宝珠花橋下流)　問合せ:春日部市大凧あげ祭り実行委員会事務局(商工観光課内)
TEL:048-736-1111　アクセス:東武アーバンパークライン南桜井駅北口下車　直通シャトルバス(有料)ほか

5/4(水・祝) 春日部大凧マラソン大会

がんばるランナーをみんなで応援しよう!

美しい田園風景を眺めながら走れる江戸川堤防沿いのコースやアットホームな雰囲気が特徴で、全国から約1万人のランナーが参加する大会です。

場所:庄和総合公園周辺
問合せ:春日部大凧マラソン大会実行委員会事務局
(春日部市教育委員会　スポーツ推進課内)
TEL:048-763-2446　※ランナー申込は終了しております。
アクセス:東武アーバンパークライン南桜井駅北口下車
徒歩20分または直通シャトルバス(無料)

PRESENT

感想をお寄せいただいた方の中から 抽選で計4名様に、
クレヨンしんちゃん「4Pランチボックス」または「フェイスタオル」をプレゼント!

「クレヨンしんちゃん」©臼井儀人／双葉社・シンエイ・テレビ朝日・ADK

クレヨンしんちゃん「4Pランチボックス」 2名様

クレヨンしんちゃん「フェイスタオル」 2名様

●応募受付期間
平成28年4月1日(金)～平成28年8月1日(月)必着

●応募方法
①市公式ホームページ内専用フォームからご応募ください。→ かすかべプラス で検索!
②官製はがきに以下の項目をご記入の上、ご郵送ください。

□お名前・性別・年齢・ご住所・電話番号　□ご希望の商品名
□本誌の入手先　□よかった記事(ページ番号)　□ご意見・ご感想
《応募宛先》〒344-8577　春日部市中央六丁目2番地
春日部市役所シティセールス広報課　かすかべプラス第6号プレゼント係

▼専用フォーム

※賞品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。
※応募の際にご提供いただく個人情報(氏名・住所等)は当企画以外の目的には使用しません。

READERS' VOICE

読者からの声を紹介!

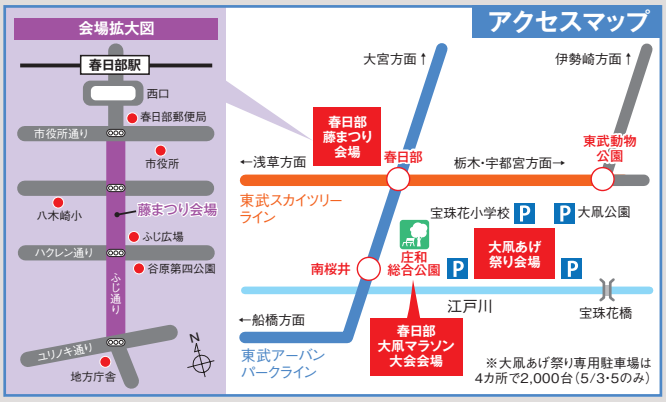
"かすかべの人々の幸せアルバム"と題して、「新市施行10周年の歩み」をテーマとした前号『かすかべプラス第5号』に対して、お寄せいただいたご意見・ご感想の一部を紹介させていただきます。

結婚して他市に移り住みましたが、改めて春日部市の住みやすさを感じています。

市外在住　50代　女性

春日部市がより魅力的なまちになろうとする様子がよく伝わってきました。

市内在住　30代　男性



[編集後記]

今号のテーマはスポーツ。

今回は、世界で活躍するバスケットボールの渡嘉敷選手とボクシングの内山選手にお話を伺うことができました。

「好きになることが、何より大切」。驚いたことに、お二人から全く同じ言葉が出てきました。つらく厳しい練習でも、好きだからこそ頑張れるとのことでした。

また、学校の先生や地域の指導者の皆さんを取材すると、そこには共通して子どもたちを温かく見守る姿がありました。子どもたちが全力でスポーツを楽しめる、そして憧れの選手に刺激を受けてスポーツにもっと親しめる環境がこのまちにはあると実感しました。

地域のブランド力を評価する「地域ブランド調査2013」(ブランド総合研究所)で、本市は「スポーツのまち」というイメージで全国第32位に挙げられています。

子どもたちの自主性を育む環境、そしてたくさんの子どもたちの多岐にわたる活躍がこのような結果につながっているのかもしれません。

また、「好きなものを見つけること」は、もしかすると万事に通ずる、人生を豊かにする秘訣なのかもしれません。

金子忠之　河西文仁　重枝紗智子
山崎嘉那子　湯口聡美
(春日部市シティセールス広報課)

表紙の人:大沼中学校剣道部の生徒さんにご協力いただきました。

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌
kasukabe+ 2016 SPRING / SUMMER
(新・春日部市施行10周年記念号)

制作協力・印刷・製本　共同印刷株式会社

＊本誌の無断転載・複製を禁じます。

発行日　平成28年3月
発　行　春日部市シティセールス広報課
〒344-8577 埼玉県春日部市中央六丁目2番地
tel 048-736-1111
ISSN 2188-1928

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用　R70

春日部市

+1のあるまち kasukabe